

第1回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 平成28年2月1日(月)10:00~12:00

2 場所 福知山市役所5階全議員協議会室

3 出席者

委員	青山委員、大久保委員、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	松山市長、差峩副市長、長坂室長、山中課長、岸本補佐、大槻主査、阪根主査、河野主査

4 会議概要

	議題	内容
1	委員会の目的等	【資料1】公立大学法人福知山公立大学評価委員会の概要により、設置目的、意見聴取事項等について確認
2	委員長等の選出	互選により青山公三委員が委員長に、委員長指名により大久保正明委員が職務代理に選出
3	委員会の会議運営について	【資料2】委員会の運営に係る確認事項等により会議運営ルールや公開開催することなど、また傍聴人心得を確認
4	中期目標・中期計画について	【資料3】【資料4】により中期目標(案)、中期計画(案)を説明
5	意見交換・質疑等	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■中期目標は中期計画、年度計画とも連動する重要なもので、6年間で実現可能な項目を慎重に設定する必要がある。 ■福知山を中心とした地域の貢献、地域の課題解決とそこで活躍する人材の育成が一番中心でないといけないと考える。 ■福知山公立大学の使命は、この地域に利益を戻すことであると考えてるので、地域の定義を中期目標に置いて明確にすべきではないか。 ■この地域をどれだけ明るくすることができるかに特化したほうが良い。 ■福知山公立大学は「人」に焦点を当てるという考え方から、 「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を 「市民の大学、地域の人々のための大学、世界の人々とともに歩む大学」

		<p>という表現にしてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■志願者を定員の何%までは集めるという志願者の確保目標を示してはどうか。 ■耐震工事をどこが負担するのかは市民にとって知りたいところだと考える。もし大学が負担することになるのなら、それも含め記載したほうがいいのでないか。 ■「地域に根ざし、世界を視野に活躍するグローバルリスト」と記載されているが、逆のように感じる。「世界を視野に広い視点で地域に根ざし活躍してくれる人材」を育成するとわかる記載をしたほうがいいのでないか。 ■改組の計画を記載し何年後には200名体制にするといい。公立大学は学費を上げることができないため、業務改善や合理化を進めるだけでは財政運営シミュレーションに無理がでる。 ■教学の3つのポリシーについて、中央教育審議会大学教育部会の素案で示されたように、今後はディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの順で記載することが通常となる。 ■社会人教育がここでなら受け入れられるという大学であるべきであり、記載を検討してもいいのでは。 ■企業の欲しい人材を育成し企業活動に寄与することは、グローバルにも役立つ。地元企業に目を向けた大学の活用をもう少し考えてもいいのでないか。
--	--	---

◎委員長等の選出

- 5名の委員の中で唯一の大学教授であり、龍谷大学政策学研究科教授として、公共政策や大学の経営運営、教学内容に幅広い見識をお持ちの青山委員に委員長をお願いしてはどうか。

(青山委員)

承知しました。

◎職務代理の選任

■青山委員長

- ・大阪府立大学 高等教育推進機構 教育推進課長である大久保委員であれば様々な見識をお持ちであり、昨年の公立大学検討会議委員としての経験からも適任だと考える。

(大久保委員)

承知しました。

◎委員長等あいさつ

■青山委員長

- ・商店街活性化の取組みなどで京都府北部地域に関わってきたが、この地域の人材育成機能は非常に弱いと感じていた。そんな中、福知山公立大学は重要な役割を担うと考えている。
- ・アメリカに15年間住んでいたとき、様々な地域や大学を見てきた。コーネル大学などはニューヨークから車で3～4時間程かかる山の中の小さな田舎まちにあるが、コーネル大学は地域だけでなく世界から人を集めて世界的な人材を育成している。イエール大学などもそう。福知山などはそれからすると都会である。日本の大学は東京、大阪、名古屋、京都などの都市部に集中しているところが特徴であるが、何か変革が必要であると感じていた。福知山公立大学の存在は、その課題に対し先鞭を付けることになるのではないか。そういった取組みを評価する委員に選出いただいたことを光栄に思っている。

■大久保委員

- ・公立大学検討会議で委員としてお世話になっていたときには、公立大学設置は困難であり、やめたほうがいいのではないかと思っていた。しかし、現在の志願者を見るとそれが杞憂であったと感じている。
- ・この地は、受験生を集めるにも魅力的なところである。福知山公立大学の取組みは全国からも注目を浴びている。

5 協議・報告事項（■は委員からの意見 ⇒は市回答）

（1）委員会の会議運営について

（市）【資料2】により説明。

（委員長）

説明に対し何か意見は。

（委員）

特になし。

（委員長）

原則公開とされているが、公開の可否について確認の必要がある。公開可ということで異議はないか。

(委員)

異議なし

(2) 中期目標・中期計画について

(市)【資料3, 4】により説明。

■中期計画については、4月以降に公立大学法人が策定するものであり、本日の基本的な議論は中期目標の中身であるが、中期計画の中身が書いてないと中期目標のイメージがわきにくいのではという意味で、中期計画も並列して記載してあるという理解でよいか。

⇒はい。中期目標に基づき中期計画を策定する場合、福知山市としてはこうした視点が必要ではないかという考え方を示した案である。

■本日の評価委員会において、中期計画の中身についても意見していいのか。

⇒中期計画については、4月以降に福知山市が評価委員会に意見聴取することを予定している。ただし、中期目標策定時に、市として今回の評価委員会からいただいた御意見を法人に伝え、法人において評価委員会の御意見を踏まえて更に議論を進めてもらいながら中期計画の策定を進めていただくという流れである。したがって、中期計画の中身についての御意見についても賜りたい。

(委員長)

特に中期目標に重点を置き、表現や必要な視点等、それぞれお気づきの点を述べていただきたい。

■中期目標に書いたことには重みがある。中期目標において指示された事項を、中期計画、年度計画に定めることになるが、数値目標を持って計画通りに進めていけるかが重要。特に国公立大学では、中期目標の定め方によって、中期計画の記載内容が強く縛られることになる。

・つまり、中期目標等を書いてしまったがために、やりたくもないことを、たとえ経費がかかったとしてもやらざるを得なくなってしまう。一方、書いてしまうことで、逆にそれが強いミッションとなり、皆が一丸となってやっていけることもある。とにかく書いてしまうと6年間縛られることになるため、軽々しく書けないことを御承知おきいただきたい。

・国立大学が3つに類型化しようとしている。1つ目は、京都大学、東京大学ほか旧帝大のような卓越した教育研究で世界のリーダーを育成しようとする大学、2つ目は、特色ある専門分野に特化する大学、そして3つ目が、地域に貢献する大学である。地域貢献は本来、公立大学が担うものであり、公立大学の有り様が非常に大事になる。

・中期目標において「グローバルリスト」の育成を掲げられており、「世界」という言葉がしばしば出てくるが、そうすると中期計画において、留学生を何人連れてくるのか、宿舎はどうするのか、英語で授業するのかなどと縛られていくこともありえる。地元の高校生に福知山公立大学に来てほしいという視点で見た時、やはり福知山を中心とした地域貢献、地域の課題解決とそこで活躍する人材の育成が一番の中心でないといけないと考える。そのことをまず評価委員会で確認した上で中期目標

がこうであるべきだというような議論にすべきと感じた。

- ・「グローバル」の時代であるため、「グローカル」は否定しないし、当然必要なことであると思う。ただし、今、国立大学と公立大学のミッションがかぶろうとしている時に、京都府内においては、幸いにも京都大学が異なるミッションで動いており、この地域の課題解決等については、そもそも考えておられないと思う。つまり、ひょっとしたら地方国立大学がされようとしているミッションを福知山公立大学が担うことになるのではないか。そうした大きな使命の中、将来の定員増に向けて取り組んでいかなければならないということが求められている。

(委員長)

具体的な表現の見直し等についての御意見はないか。

- 事務局の説明において、「地域」というキーワードが出たが、今回の1,000名以上の志願者の中に地元の人がほとんどいない。市外から来た学生達をこの地域で育てて地元に戻すということも地域貢献ではあるが、おそらく、福知山公立大学のミッションは、この地域に利益を戻すことだと思う。そのことを踏まえると、もう少し地域の定義を中期目標において明確にすべきだと考える。また、いたる箇所で北近畿地域という固有名詞が出てきている。これは、学生募集戦略にも影響すると思う。
- ・COC「地の拠点」という言葉が出てくる。COCは、元々教育プログラムだったが、総務省が文部科学省と共同でCOC+という事業を立てた。その目標は3つある。1つ目は、福知山を例に上げると福知山の子ども達を福知山の大学に引き止めること。そのためには、地元の子供達に奨学金を出して優遇措置を図ることが考えられる。2つ目は、福知山から市外に行った学生をこの地域に就職などで呼び戻すUターン。そして、3つ目が、元々他の地域で育って学んだ学生をこの地域に呼び込むこと。この3つがCOC+の大きな目標となっている。
- ・結論を申し上げますと、この地域をどれだけ明るくすることができるかに特化して記載したほうが良い。大都市には多くの大学があるが、それぞれの大学が地域貢献を謳っているのに、市民を相手になかなか目に見える地域貢献ができない。そう考えると、福知山市の人口は、ひょっとしたらリアルに市民に地域貢献を伝えることができる最も適した規模なのではないかと思う。
- COC+の3つ目の目標である、他地域の人々をこの地域に引っ張ってくるという意味では、今回の志願者の多くが他地域の受験生ということだが、彼・彼女達がこの地域に魅力を感じて定着してくれる状況を築けることができれば、重要な目標となると思う。そうした目標をどのように書き込んでいくのかをもう少し考える必要がある。
- ・例えば、基本理念に「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」と書いてあるが、例えば「地域の人々のための大学」とか「世界の人々とともに歩む大学」いうふうに「人々」という言葉を入れてはどうか。人に焦点を当てるという考え方をすることによって、例えば世界の人々というのは、留学生を沢山取らなければならないということではなく、世界の人々と繋がって何らかの形で交流するという言い方もできる。「世界とともに歩む」となると少し振りかぶりすぎる感じがあり、イメージが沸かなくなる。国という単位で動くのか、人という単位で動くのか

か。福知山公立大学は、人と一緒に動くのだという方向性を示していくという考え方を入れてもいいのではないか。

■基本的な目標の内容を言葉で明確にするのは、大変慎重にしていかなければならない。単に留学生を沢山増やしたからといってグローバルにつながるかわからないが、数的には見える部分が評価される。

・「グローバル」という書き方が、実際に大学側にとって制限になるのかわからないのか、問題がないかを確認したい。

■「グローバル」という言葉は京都市内でも議論がある。京都産業大学が中心になって「グローバル人材育成センター」を運営されているが、グローバルという言葉の意味は何となくわかるようでわからない。しかし、グローバルという言葉は英語ではなく、それを作り出したことによって何か新しいことを考えていくきっかけになる点では面白い。

■グローバルという定義にはすごく議論がある。単純には英語ができて、海外との交流ができてということだと思う。交流でもインバウンド、アウトバウンドとあり、それは学生レベルと研究者レベルとある。置き換えるとしたら、解釈としては国籍とか民族だけのグローバルではなく、高齢者とか障害者とか多様なバックボーンを持った人達が分け隔てなく学べるという広い意味であれば良いと考える。

・大学の理念や目的が多分イコールになると思うが、認証評価のときに学位や3つのポリシーとの整合性について一連のものとしてチェックしなくてはならない。記載することで、「世界に開かれた大学」を就職先としてどう繋げていくのかとなった時に困ったことになり得る。

・私が知りたいのは、「グローバル」が、世界なのか、中国なのか、アメリカなのか、どこを指しているのかということ。地域に限定したことにはしないのだとしたら、私の感触とは違うので、そこを確認したい。

■私の理解ではグローバルに言われている諸処の考え方を導入する大学ではないか。例えば、高齢者、障害者、色んな人々を理解するということ、また、フェアトレードのような正しい取引をきちんとして生産者の人に正しいお金が渡るような仕組みを含めて、日本だけで言われている考え方ではなく、グローバルな考え方が重要であるということではないか。

⇒ここでの「グローバル」というのは一定の国を対象にしたものではない。地域課題の中で、いろいろな問題、高齢者、過疎、地域の問題を世界的な視野で考える。地域実践型教育研究において、地域をどうしていくのか、もう少し基本理念の中でしっかりわかりやすく踏み込んだ形で書かなければならないのではないかと考えている。あまり具体的に絞りすぎてもいけないが、抽象的すぎてもいけない。

■中期目標に謳うことで、本来なら難しいことでも組織的に取り組むことが可能になることがある。例えば、ある公立大学の中期目標の中に研究センターを作るという目標が記載されており、大学の中でこれは一体何かという議論になった。経過を調べてみると、大学設立団体に対し大学にもっと政策的に関わってほしいという思いから書かれていたものであったことがわかり、大学設立団体に相談したところ、これまで大学だけでは動いていなかったことが動き出した。これは、中期目標がいい

面で働いた例と言える。きちんとした意思を持って言葉を書き込むことが重要。

■財務について、入学者の数にもよるが、間違った方向に行かないように、やるべきこと、改善すべきことについて、タイムリーな見直しが求められる。

■私は、公立大学の運営は大変な努力を強いられるものであると理解している。人口が8万人以下で公立大学を持つのは大変なことである。今年だけの志願者数で言えば期待できるものであるが、来年、再来年が重要なポイントとなる。応募者の期待に沿うような大学になるよう考えていかなければならない。財務の見直しについてもいずれ議論されるのか。

⇒中期計画の中で6年間の資金計画をお知らせし、また、年度計画において実績評価をいただく。もちろん財務に関しても御意見を伺うことになる。

■志願者を定員の何%までは集めるという志願者の確保目標を示してはどうか。数値目標として長期目標に盛り込むことは難しいかもしれないが、年度計画に盛り込むことを検討してはどうか。

・研究費について、成美大学のときは非常に少なかったと考えている。これでは思うようなことができないのではという額であった。人件費は別として教育研究費は6億7千万円で示されているが、6年間でこの額ということか。また、耐震化がされていない校舎もあるということなので、今後もいくらか大きな支出があるのだと思うが、耐震工事を市か大学のどちらが負担するのかは市民にとっては知りたいところだと考える。もし大学が負担することになるのなら、それも含め記載したほうがいいのでないか。

・グローバルの件について、広い視野、世界的な視野で物事を見ることの出来る人材を育て、地域に根ざして活躍するというのが本来の考え方だと理解していた。しかし、目的や理念の文言には「地域に根ざし、世界を視野に活躍するグローカリスト」と記載されているが、逆のように感じる。理念や目的、育成する人材像について、「世界を視野に広い視点で地域に根ざし活躍してくれる人材」を育成するとわかるような書き込みをしたほうがいいのでないか。

⇒数値目標については、大学で中期計画を策定していただく際に、大学の組織体制や今回の募集状況を踏まえ、より具体的なもの、より戦略的なものを示していただきたいと考えている。

⇒研究費については、基本的に6年間で持つこととなるが、当面の数字については財政運営シミュレーションの範囲内の中で示している。早期の定員増加などにより大学経営が順調に進むようであれば、研究費を広げていくことも検討することとなる。また、外部資金や補助金を得て、研究費に充てるとすることも考えていかなければならない。

⇒大学施設の中で、耐震化できていない建物もある。設置者として、市で修繕費を持つことになるため、市の計画もまとめ、付記していきたいと考えている。

■「第3 教育研究上の組織」は、既に文部科学省に認可されたものであり、もはや目標ではない。この計画は元々定員増ありきであり、将来的にどうしていくかを書かなければならず、そうしないとそろばん勘定が合わない。“教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想”のロードマップの中で改組の計画が描かれていた。これが仮

称でも生きているのなら、これを中期目標に記載し、何年後には200名体制に
すると言いつつたほうがいい。公立大学は学費を上げることができないので、業務
改善や合理化を進めるだけでは財政シミュレーションに無理がでる。

- ・ 教学の3つのポリシーについて、中央教育審議会大学教育部会の素案で示されたよ
うに、今後はディプロマ・ポリシーから記載することが通常となる。人材育成の目
的や、学生を主語にこういうことができる人材を育てる、その人材にこういう学位
を授与するという方針がディプロマ・ポリシー（D）。それを実現するための教育
課程の方針がカリキュラム・ポリシー（C）。そして、このカリキュラムに受ける
には、高校でこういう能力を身に付けてくださいというのがアドミッション・ポリ
シー（A）である。実は現在法規制がかかっているのがアドミッション・ポリシー
だけであるため、この中期目標案のようなA→C→Dという書き方になってしまう
が、これからはD→C→Aが主流になると思うので、この順番で記載したほうが望
ましい。
- ・ 志願者は、おそらく来年は減ることになる。教育の中身がまだ評価されていないこ
ともあり、今回の倍率を見た来年の受験者は引いていくと考えられる。志願者を多
数集めることは必ずしも良いことではない。その分、不合格通知という学生にとっ
て嬉しくない通知を送ることになってしまうとともに、受験生を送り出してくれた
高校との関係にも影響が出てしまう。大切なことは、福知山公立大学に入るため
にはこのぐらいの能力がないといけないということが定着することである。志願倍率
として3～4倍で安定していくことが理想な姿ではないか。間違っても検定料収入
で経営を安定させようなどと考えるはならない。
- 定員と志願者数と歩留まり、定員増と教員の負担などから健全な大学運営のライン
をしっかりと見据えて議論する必要がある。
- ・ 社会人教育の充実についても実施体制などを含めてしっかりと考えないといけない。
社会人には学びのニーズはあるが、学びたくてもそういった機会が少ない。社会人
教育がここでなら受け入れられるという大学であるべきであり、社会人教育につ
いて記載を検討してもいいのではと考える。
- ・ また、もう少し地元の企業に目を向けた大学にすることも必要。企業を誘致する際
や、企業がこの地域に立地したいときにコミュニティカレッジのように企業の欲し
い人材を養育するテーラーメイドのような要素もあってもいいのではないかと考
える。学術の理念からはかけ離れているが、企業活動に寄与することは、グロー
カルにも役立つことである。地元企業に目を向けた大学の活用をもう少し考
えてもいいのではないかと考える。

(3) その他

(市)【資料5】により次回の日程を説明

6 閉会

以上